

(2) 授業デザインと「見方・考え方」
 「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を実現する際には、子どもたちの授業改善を進める際には、「見方・考え方」を働かせる授業に迫ることが、教師に期待されている。

【参考】

小学校学習指導要領(平成二十九年告示)
 初等教育資料 2019年9月号

※1、※2、※3……資料2参照（各

II 質・能力を育成する授業を実現する上で配慮すべき事項

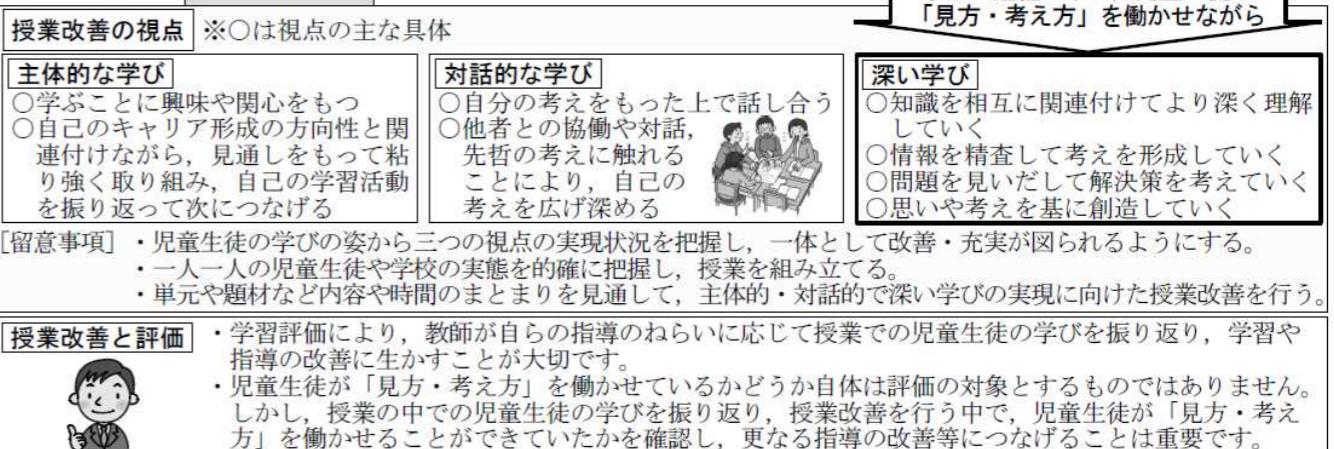
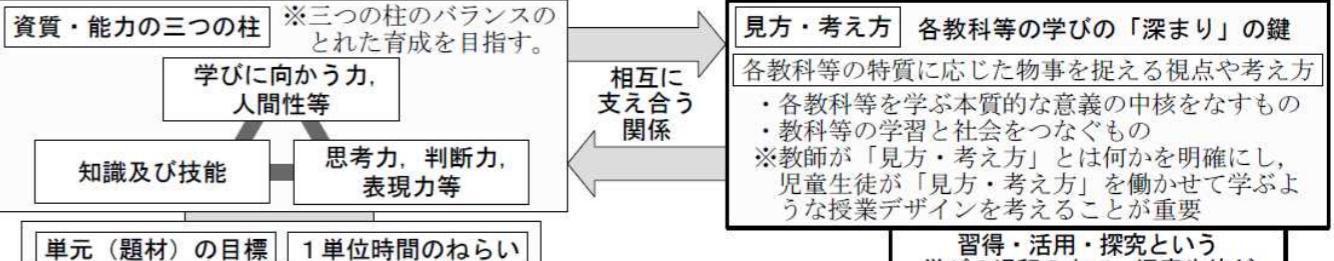
(1) 学習指導要領の各教科等の目標と「見方・考え方」
 まず、学習指導要領の教科等の目標に「見方・考え方」を働かせることを確認する必要がある。
 (2) 授業デザインと「見方・考え方」
 働かせる授業を実現するための学習活動の工夫について記載されている(※2)。そこで、各教科等の学習指導要領の「第(1)において、「見方・考え方」を働かせることが求められる」とされ、「深い見方・考え方」を自在に働かせられるようになることが、教師に期待されている。

に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にする議論が展開され、各教科等において育成を目指す資質・能力が三つの柱に基づき整理されるとともに、「見方・考え方」も教科等ごとに整理された。「見方・考え方」は、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」とされ、その教科等の本質、その教科等を学ぶ意義とも重なると言える。さらに、「見方・考え方」は、「教科等の教育と社会をつなぐ」言い換えれば、「子どもたちが大人になって生活していく」ことも重要な働きをするものもある。

単元(題材)及び授業構想のポイント

資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

各教科等において目指す資質・能力を育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点に関する各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」であり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働くことを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要です。



外国語活動、外国語(英語) 「見方・考え方」を働かせることができる言語活動の充実

言語活動においては、目的や場面、状況等を意識することが重要です。与えられた話型による対話のみに終始するのではなく、児童生徒が自ら思考・判断し、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、主体的に伝え合うことができるような言語活動を繰り返し経験させることで、必要な資質・能力の育成を目指しましょう。



主体的に伝え合う言語活動を進めるための4ステップ
 ①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。
 ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、見通しを立てる。
 ③目的達成のため、既習事項を想起しながら具体的なコミュニケーションを行う。
 ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。

観点別学習状況の評価の対象はあくまでも各教科等で育成を目指す資質・能などをどの程度身に付けているかどうかであり、「見方・考え方」を働かせている児童生徒の「見方・考え方」については、その例示を踏まえながら、学習内容等に応じて柔軟に考えることが重要である。

I 「見方・考え方」とは何か

(1) 「見方・考え方」の定義

学習指導要領総則において、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方」と定義されている。言い換えれば、各教科等にはそれぞれ学習対象があるが、その学習対象にどのようにアプローチしてどのような視点や考え方で捉えるのかという教科等の本質に迫るために視点や考え方、「見方・考え方」である。従来から数学や理科などの一部の教科においては類似の概念が用いられてきたが、今回の学習指導要領では、そうした従来の整理とは別に、全ての教科について、再整理している。

「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもつている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするため重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働くことを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが求められる。この、「見方・考え方」とは何なのか、どのように「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業の実現に向けてどのような配慮すればよいのだろうか。

II 「見方・考え方」と資質・能力の関係

(3) 「見方・考え方」と資質・能力の関係

「見方・考え方」は、その趣旨が教科共通で理解できる視点であるのに対し、「深い学び」の視点は極めて重要な視点においては各教科等の資質・能力の育成の観点から「深い学び」の鍵となるのが「見方・考え方」である。また、「主体的な学び」や「対話的な学び」はその趣旨が教科共通で理解できる視点であるのに対し、「深い学び」の視点においては各教科等の特質に応じて示される必要があるとされ、各教科等の学びの「深まり」の鍵となるのが「見方・考え方」であるという見解が示された。

(4) 「見方・考え方」と資質・能力の関係

「見方・考え方」を働かせることによって資質・能力が育まれたりする。また、「見方・考え方」を働かせることが、児童生徒が「見方・考え方」が更に豊かになると資質・能力は相互に支え合う関係にあるとされている。

学習過程の例 小学校6年 NEW HORIZON Elementary Unit 4 Summer Vacations in the World (6/8)

《ねらい》過去の表現や既習事項を用いて、夏休みにしたことや感想などについて伝え合うことができる。

①活動の目的や場面、状況等を確認する。
 ②言語材料に音声で十分に慣れ親しんだ上で、話型を基に對話文を作成する。
 ③-I友達とペアになり、互いに伝え合う。

单元末の「夏休みの思い出発表会」に向けて、友達と詳しく伝え合う練習をしよう
 Hello, Kenji. How was your summer vacation?
 I went to Oga. I enjoyed camping. I ate curry and rice.

中間評価(フィードバック)を行う

ポイント: ジェスチャー、声量などの態度面だけでなく、児童生徒が既習事項を想起し、使える英語を選んだり、組み合わせたりできるような場を設定しましょう。

③-II相手の話したことに対して適切に応じながら、会話の流れを大切にしたり取りを行う。

ポイント: 話型にとらわれず、使用する言語材料について教師からの提示がなくとも児童生徒が既習事項を積極的に活用し、考え方や気持ちを深めていくように日頃から促していくことが効果的です。

④視点を基に言語面・内容面で振り返る。
 *は、伝えたいが正しい英語が出てこなかったので、日本語混じりで表現した場面です。